

船の事故	発生日	発生県	船舶種類	事故形態
	2月2日(水)	福岡県	貨物船	単独衝突
人の事故	発生日	発生県	事故区分	事故内容
	2月2日(水)	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落

先週は、海難・人身事故の発生状況は、前週に比べ少なくなっています。引き続き、海難ゼロを目指して、安全運航をお願いします。

【問合せ先】  
第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 浦川  
安全対策調整官 川部  
Tel: 093-321-2931 (内線2640)

え！？私の県、事故率高め！？ 県別海難発生率は？

令和3年第七海上保安部管内の小型船舶※1の各県別の海難発生状況は以下の通りです。

七管区内各県小型船舶海難発生隻数

都道府県(船籍)	海難発生隻数(隻)※2	在籍船数(隻)※3	海難発生率
長崎県	90	18,162	0.50%
福岡県	82	11,710	0.70%
大分県	34	6,406	0.53%
佐賀県	28	7,104	0.39%
山口県	18	8,792	※4 0.20%

- ※1 小型船舶(プレジャーボート、漁船、遊漁船)
- ※2 海難発生件数は速報値
- ※3 在籍船数は、プレジャーボート及び遊漁船については、令和2年日本小型船舶検査機構ホームページより漁船については、平成28年漁業センサスより引用
- ※4 山口県の高難発生隻数は山口県西部(第七管区海上保安部管内)のみの値のため参考値

小型船舶全体の各県別発生隻数をみると、長崎県が一番多く発生していますが、海難発生率をみると福岡県の発生率が高くなっています。

七管区内各県漁船海難発生隻数

都道府県(船籍)	海難発生隻数(隻)※2	在籍船数(隻)※3	海難発生率
長崎県	44	9,913	0.44%
福岡県	12	4,625	0.26%
大分県	15	3,127	0.48%
佐賀県	5	4,855	0.10%
山口県	8	3,865	0.21%

漁船の各県別発生隻数をみると、長崎県が一番多く発生していますが、海難発生率をみると大分県の発生率が高くなっています。

七管区内各県プレジャーボート海難発生隻数

都道府県(船籍)	海難発生隻数(隻)※2	在籍船数(隻)※3	海難発生率
福岡県	63	7,085	0.89%
長崎県	43	8,249	0.52%
大分県	17	3,279	0.52%
佐賀県	22	2,249	0.98%
山口県	10	4,927	※4 0.20%

プレジャーボートの各県別発生隻数をみると、福岡県が一番多く発生していますが、海難発生率をみると佐賀県の発生率が高くなっています。

七管区内各県遊漁船海難発生隻数

都道府県(船籍)	海難発生隻数(隻)※2	在籍船数(隻)※3	海難発生率
長崎県	3	157	2%
福岡県	7	89	8%
大分県	2	6	33%
佐賀県	1	35	3%
山口県	0	19	0%

遊漁船の各県別発生隻数をみると、福岡県が一番多く発生していますが、海難発生率をみると大分県の発生率が高くなっています。

七管区内各県海難種類別発生隻数

都道府県(船籍)	運航不能	衝突	単独衝突	乗揚	浸水	転覆	火災	総計
長崎県	32	35	3	10	6	1	3	90
福岡県	45	18	1	7	7	4	0	82
大分県	15	12	0	3	2	0	2	34
佐賀県	18	2	0	4	4	0	0	28
山口県	11	3	0	1	2	1	0	18

漁船・遊漁船及びプレジャーボートで海難発生率が高い傾向が見られた福岡、大分、佐賀県では、運航不能海難が多く発生、原因は、機関故障が大半を占めています。運航不能海難は、多くが発航前点検や定期的な部品の交換等で防止可能です。必ず発航前に機関の状態や潤滑油、燃料、バッテリーの状態を確認しましょう。

まずは、発航前検査！一人一人の心掛けが安全な海への第一歩！

右の二次元コードから発航前検査チェックリストを活用しましょう。

[https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/01\\_safetyguide/uminiderumaeni.pdf](https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/01_safetyguide/uminiderumaeni.pdf)

